



## 阿蘇山の噴火から11月20日で1ヶ月

阿蘇中岳の噴火から20日で1か月が経過しました。水蒸気噴火警戒レベルは18日に3の入山規制から2の火口周辺規制に引き下げられたとの事です。

今回の噴火で人的被害はなかったものの、実は噴火警戒レベルの引き上げについては、問題提起のきっかけとなりそうです。

今回の噴火では、入山規制へのレベル3への引き上げは噴火後でした。ところが、京都大学防災研究所教授で、火山研究センターの大倉敬宏博士によると、実はレベルを上げるタイミングについて、噴火の10分前に最後のチャンスがあったそうなのです。

これは、阿蘇の今回のような爆発的な噴火の前には、特徴的な地震があったという事と、さらには地下の熱水やマグマなどの移動を示す火山性微動も非常に増大しており、すでに火山性微動がレベル3に上げる条件に入っていたそうです。

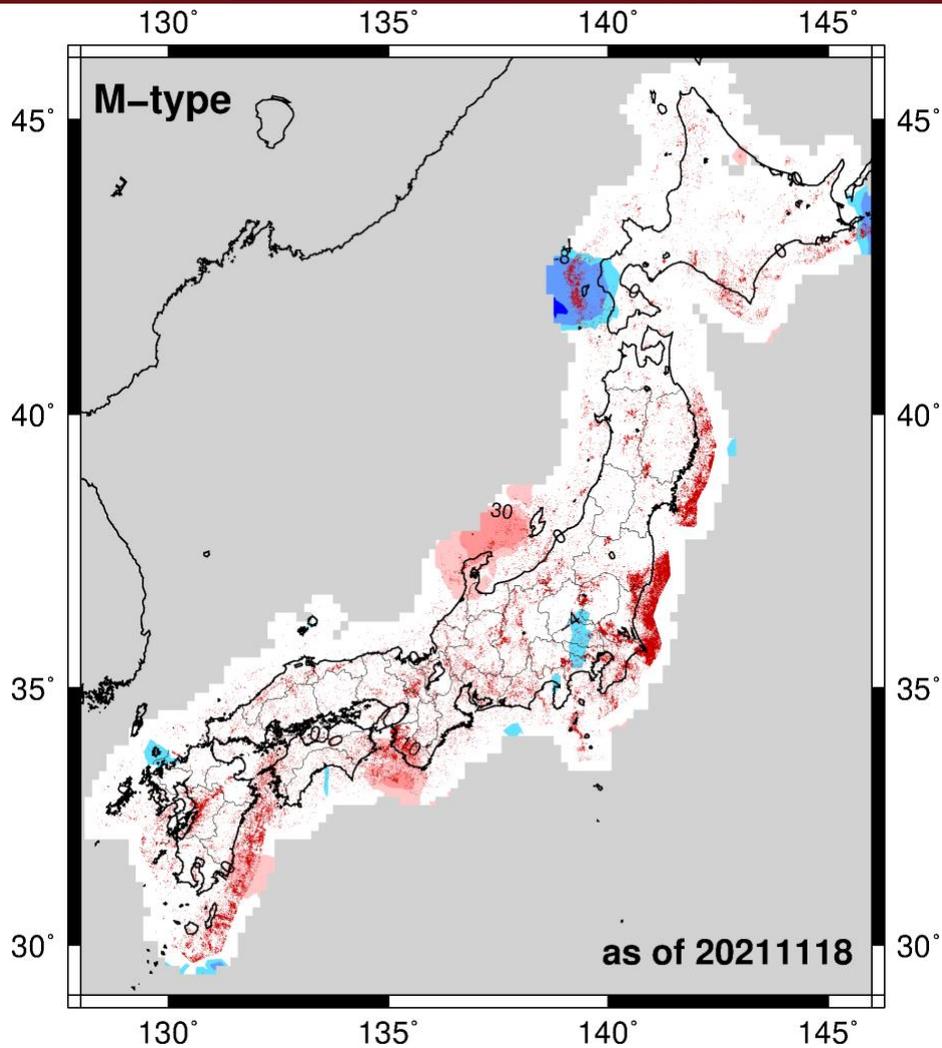
今後、命を守るという観点から、気象庁も柔軟な対応が必要なのではと大倉教授は述べています。今は SNS や、各種緊急速報など、即時に異常を伝える手段も存在します。今後の情報発信についても、考えるきっかけとなる噴火だったかもしれません。

## 日本列島陸域の地下天気図®

10月18日のニュースレターに引き続き、日本列島の主に陸域に特化した地下天気図解析です。今週は11月18日時点の M タイプ地下天気図をお示しします。現時点では M タイプも L タイプもほぼ同様な異常を示しています。ちなみにこの地下天気図解析では対象マグニチュードは M6から M7程度の地震と考えています。

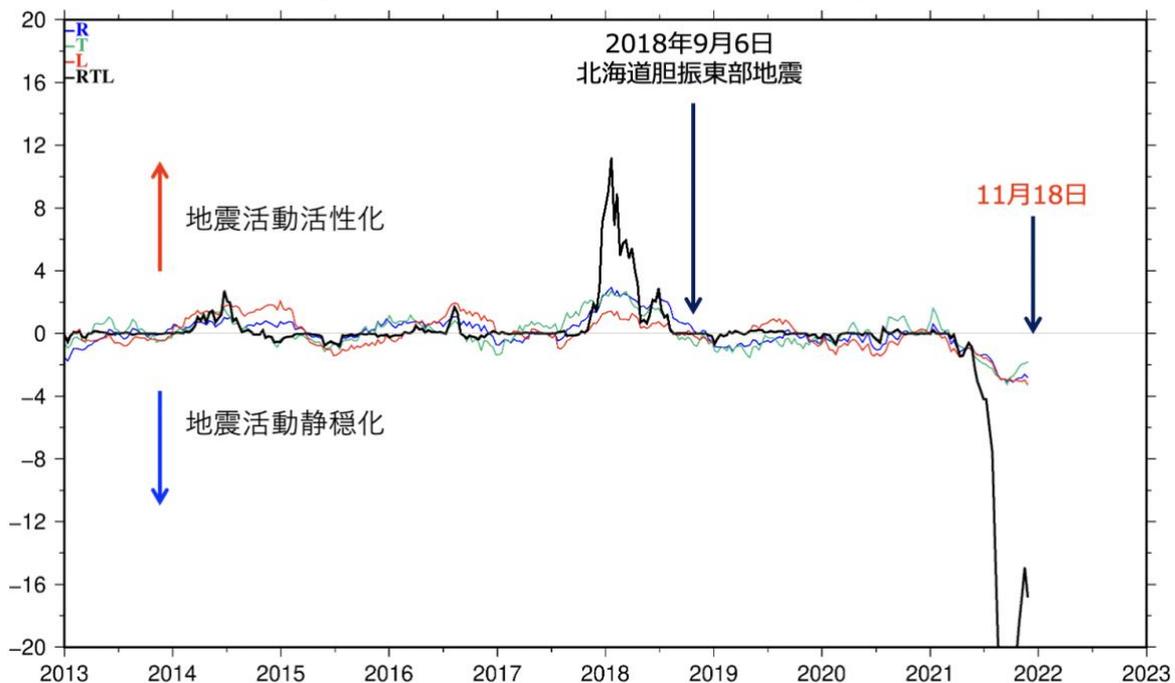
今回の解析では、関東地方の静穏化異常は、かなり小さくなっている事と、最も目立つ異常は北海道南西沖の異常です。

さらに九州北部の壱岐島周辺で小さいながらも異常が発現している事がわかりました。能登半島周辺は赤い異常が明瞭で、地震活動が活発化している事が地下天気図解析からもわかります。同様に紀伊水道での地震活動も活発化しています。



次にお示しする図は北海道南西沖の奥尻島におけるRTL時系列変化曲線です。

### 奥尻島におけるRTL地下天気図時間変化曲線





現時点で、グラフは下側に大きく振れて静穏化が進行している事がわかります。また 2018 年の胆振東部地震の前1年ほどは、この北海道南西沖の地域でも地震活動が活性化していた事がわかりました。

## 参考:北海道南西沖地震とは

北海道南西沖地震は、1993 年 7 月 12 日、午後 10 時すぎに発生しました。マグニチュードは 7.8 と報告されています。当時は震度6強、6弱といった分類は無く、奥尻島での最大の震度は震度6(推定)となっています。震度が「推定」という表現になったのは、当時奥尻島には地震計が配備されていなかったためです。

なおこの地震は、日本海側で発生した地震としては、近代以降最大規模の地震でした。震源に近い奥尻島は地震発生直後に大津波に襲われ、奥尻島で死者 175 名以上、最終的に死者・行方不明者合わせて 230 名という人的被害を出しました。

1993 年 7 月 12 日 北海道南西沖地震 地震発生から数分で巨大津波が奥尻島に到達 青苗地区は壊滅的被害【まいにち防災】

<https://www.youtube.com/watch?v=zfjiwFHywGg>

北海道南西沖地震 1993 年(平成5年)7 月 12 日

[https://www2.nhk.or.jp/archives/311shogen/disaster\\_records/detail.cgi?das\\_id=D0010060011\\_00000](https://www2.nhk.or.jp/archives/311shogen/disaster_records/detail.cgi?das_id=D0010060011_00000)